

未来へ

紀の川市議会だより
2025. 5. 1 発行 NO.73

紀の川市議会の第1回定例会と活動をわかりやすくお伝えします。



●CONTENTS●

高校生の声を聴く

意見交換会	P2
令和7年第1回定例会	P4
一般質問	P12
委員会活動報告	P17
追跡 あの質問、どうなったの？	P18

初めての意見交換会を開催！

#粉河高校生 × #総務文教常任委員会 × #議会広報特別委員会



高校生と市議会、 未来を語る

1月31日、和歌山県立粉河高等学校にて、高校生と市議会による初の意見交換会が開催されました。この取り組みは、市政への関心を高めるとともに、若い世代の声を市政に反映することを目的としています。

未来を担う高校生と市議会議員が直接対話することで、新たな視点や課題を共有し、より良い地域づくりにつなげる貴重な機会となりました。

開催の背景

近年、若い世代の政治参加や地域への関心を高めることが課題となつていきます。特に、地方自治においては若者の声が届きにくい現状があり、高校生の意見をどのように市政に取り入れるかが重要なテーマとなっております。そのような中で、市議会としても若い世代との対話の機会を増やし、高校生の率直な意見を聞く場を設ける必要があると考えました。こうした背景から、今回の意見交換会が実現しました。

活発な意見交換

当日は、生徒会やKOKO塾、図書部の生徒18名が参加、市議会からは10名が参加し、「議員に聞きたいこと」「住みたいまち・帰りたいまち紀の川市」「若者に届くPR方法」の3つのテーマで活発な意見が交わされました。

生徒からは、「街灯が少なく夜道が不安」「地域のイベント情報をもっと若者に届けてほしい」「市の魅力をSNSで積極的に発信してほしい」など、具体的かつ実現可能な提案が多数寄せられました。特に、安全対策に関する意見が多く出され、若者が感じる日常の不安



が浮き彫りになりました。また、情報発信に関しては、若者が関心を持ちやすいSNSの活用や、市の公式チャンネルの充実などが求められました。

他には、「フルーツを使ったおしゃれなカフェがもっとほしい」「自習ができる施設を増やしてほしい」といった要望も寄せられました。若者が気軽に集まり、勉強や交流ができる場所の不足が課題として挙げられ、これらの施設の充実が求められています。

議員からは、市が現在取り組んでいる施策について説明があり、課題や実現可能性について率直な意見を交わしました。例えば、街灯の設置については予算の問題がある一方で、地域住民との協力によって改善できる可能性があることが説明されました。

イベント情報の発信については、学校との連携を深めることで若者に届きやすくなるといった意見が出されました。加えて、カフェや自習スペースについても、民間事業者との連携や既存施設の活用が検討できることが話し合われました。

意見交換を通じて 見えた課題と可能性

意見交換会を通じて、市議会側



は若い世代が日常生活で感じている課題を直接知ることができました。特に、安全面や情報発信に関する要望は、市の施策に反映できる可能性が高いと考えられます。

一方で、若者が市政に関心を持つ機会が少ないことも明らかになりました。生徒からは「市政が遠い存在に感じていたが、議員と話することで身近に感じられた」との声が多く聞かれ、市政への理解を深めるための継続的な取り組みが必要であることが再認識されました。

高校生が語る 紀の川市の未来

意見交換会を終えた生徒から、さまざまな感想が寄せられました。

「SNSを活用して市の魅力を発信してほしい」「議員さんが優しく、意見を言いやすかった」「次回も参加したい」など、前向きな声が多数。また、「若者が遊べる娯楽施設を増やしてほしい」「空き家をリノベーションして古民家カフェを作る」「フルーツを活用したPRを強化」など、具体的な提案も。さらに、交通インフラの整備や就職先の充実など、暮らしやすいまちづくりに関する意見も多くありました。

今後の展望

高校生からは「議員と直接話す機会が新鮮だった」「自分たちの意見が市の未来に影響を与えることを実感できた」といった感想が多



く寄せられました。一方、市議会としても若い世代の視点から学ぶことが多く、今後の政策に活かしていく必要性を感じました。

今回の意見交換会をきっかけに、高校生の声をより積極的に市政に取り入れ、より住みよい紀の川市を目指していきます。今後このような対話の場を継続し、幅広い世代の意見を大切にしながら、まちづくりを進めていきます。

また、今回の意見を具体的な施策に反映するため、定期的な意見交換会の開催や、市政に関する情報を若者向けに発信する取り組みを進めていく予定です。

市議会は、若者とともに未来を創るために、これからも対話を重ねていきます。



● 第1回定例会 ●

こんなことが決まりました

定例会 会期 33日間 2月20日～3月24日
一般質問 8名が登壇

定例会の議案は

市長提出議案

- ・ 専決処分 1件
- ・ 人事案件 25件
- ・ 条例の制定・改正 14件
- ・ 令和6年度補正予算 7件
- ・ 令和7年度予算 10件
- ・ その他 1件

3件に注目!

※議会だよりは、主な議案を抜粋して掲載しておりますので、その他の議案や結果につきましても、紀の川市議会ホームページをご覧ください。議会事務局へお問い合わせください。

(議案第23号) 紀の川市手数料条例の一部改正について

1 住民票が10円で

◎コンビニに設置している多機能端末機の利用促進のため、住民票や戸籍証明書などの手数料を10円にするものです。

こんな質問が出ました

- Q** 本庁舎にある多機能端末でも同じように利用できますか。
- A** 同じように利用できます。
- Q** 来庁者には職員が誘導するののか。
- A** 窓口で案内し、操作も案内します。
- Q** 令和8年3月末までとするのではなく、もっと長くしては。
- A** 検証してその後を考えます。10円が適切なのかも合わせて利用促進のため前向きに検討していきます。



本庁設置のマルチコピー機

(議案第25号) 紀の川市国民健康保険税条例の一部改正について
(議案第42号) 令和7年度紀の川市国民健康保険事業勘定特別会計予算について

2

国民健康保険税負担過去最高に

◎令和7年度では、一人当たり税額が初めて10万円台を突破し、10万6448円になり、前年度と比べて7787円の負担増となります。値上げは3年連続です。
国保基金から5108万2千円を入れ、負担軽減をはかっていますが、医療費水準が伸びており、値上げとなりました。

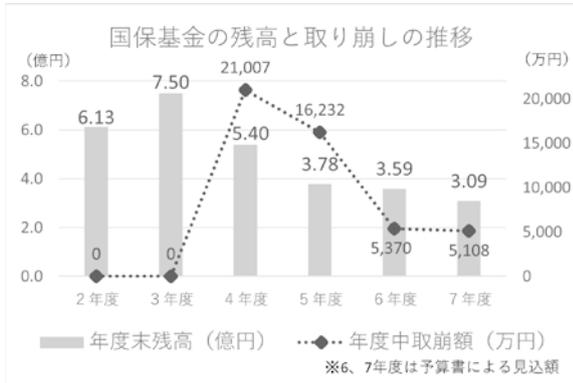
こんな質問が出ました

Q 県が示す標準保険料率よりも税率を低く設定したのはなぜか。

A 今のところ基金がありますので、それに充てています。

Q 一人当たりの年間の保険給付費の見込みは。

A 40万7876円で、令和6年度40万4911円と比較して2965円増加すると見込んでいます。



(議案第31号) 紀の川市学校給食費徴収条例の一部改正について

3

学校給食費の単価引き上げ

◎昨今の物価上昇の影響を受けて食材費の増額が避けられない状況になっています。
※現在、紀の川市では学校給食費の無償化を行っています。

こんな質問が出ました

Q 給食費の単価は。

A 単価は、前年度まで小学校250円、中学校270円が、令和7年度は小学校320円、中学校350円になります。

Q 食材の高騰などによる調達への影響は。

A 調達は大丈夫であると納入業者から聞いています。



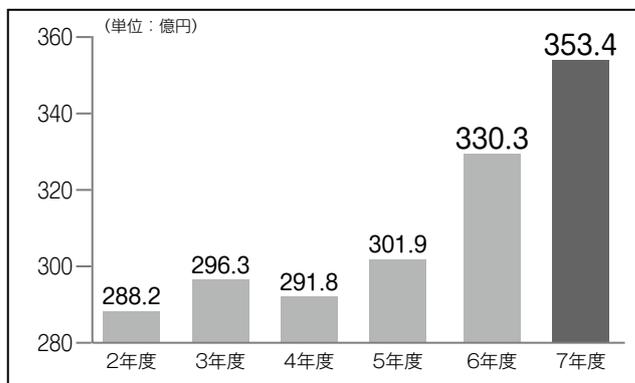
合併20年 過去最大の予算規模

市長から令和7年度の予算案が提案されたので、3月4日、5日、6日、10日、11日、12日、18日の7日間、予算決算常任委員会を開催し、審査しました。その結果、すべての予算案が提案どおり可決され、令和7年度の予算の使い道が決まりました。

当初予算額の比較

会計	令和7年度	比較(対6年度比)
一般会計	353億4,000万円	7.0%
特別会計	173億2,240万円	△0.5%
公営企業会計	54億4,930万3千円	0.1%
合計	581億1,170万3千円	4.0%

一般会計当初予算額の推移



A Q 現状と今後の考えは。
A 目標、目的を持って活動しています。まだ1年目なので出来ている部分と出来ていない部分があるが、今後良い成果を出せるようがんばりたいです。

A Q 和歌山県の拠点となる都道府県会館はスペースの問題で断念しました。それぞれの市町が独自活動による体制を構築して活動をしていることから集約は難しいです。
A 県内の他自治体と同じ事務所に集約したほうが良いのでは。

こんな質問がきました

令和6年度から東京に事務所を開設し、3名の職員が勤務しています。主に、市のPR活動や、省庁・国会議員との連絡調整、京奈和関空連絡道の整備促進などの活動を行っています。

◎東京事務所の運営経費(2074万6千円)

Pick up 1

東京事務所、今後は？



Pick up
2

目指せ ドローン活用先進地を

◎ドローン実証実験負担金（810万円）

官民連携による災害時を想定した利活用を中心とした実証実験を実施します。連携事業者であるソフトバンクがドローン2機を調達します。

こんな質問が出ました

Q 有事の際にドローンで運搬できる重量を考えると有効性に欠けるのでは。

A 孤立すると、医薬品などが不足した状態になることが、能登半島地震の際に実証されています。本市においても、たとえ5キログラムであったとしても効果を発揮することを検証します。

Q ドローン操作が可能な職員は。

A 操作資格を持った職員は9人います。災害時にはこの機種に対応できる人が10人増えています。



Pick up
3

エリア拡大！

◎デマンド乗合交通（7548万3千円）

令和7年1月から河北エリアで始まったデマンド乗合交通が、令和8年1月から河南エリアでも始まる予定です。

こんな質問が出ました

Q 河北エリアでの利用状況は。

A 運行日数40日間（1月8日～2月26日）で予約件数311件、乗客数385人です。

Q 今後、公共交通全体としてどのように進めていくのか。

A 利用状況の分析や交通事業者の人員体制などをふまえ、地域巡回バスについて大幅な見直しも検討していきます。



デマンド乗合交通（のりのり交通）

Pick up 4

早くから英語にふれる

◎英語講師派遣委託料(962万4千円)

公立保育所(7園)と市立小学校(15校)で、ALT(外国語指導助手)による市独自の英語あそび・授業を実施します。英語の歌を歌ったりゲームをしたりして英語に親しむ活動です。

こんな質問がきました

Q 保育所へ導入する目的と、期待する効果は。

A 幼少期から英語に親しむ機会をつくり、異文化への関心を高めるとともに、小学校から始まる英語の授業にもスムーズに取り組むことにつなげたいと考えています。

Q 小学校1・2年生への負担は。

A 実施は秋ぐらいの予定なので心配はありません。総合的な学習の授業を活用し、他の教科の授業数に影響のないように進めたいです。



Pick up 5

万博が始まりました

◎観光プロモーション事業委託料

(1544万2千円のうち41万6千円)

本市に興味を持ってもらうことを目的とし、東武トップツアー(株)と連携し、万博チケットをセットにした市内周遊バスツアー(1泊2日)を販売します。

実施時期は、6月下旬と7月上旬の2回開催予定で1回30名です。

こんな質問がきました

Q 参加費は。

A 一人3万9千円です。

Q この企画ツアーで本市の観光業や地域経済に効果の見込は。

A 周遊ツアーで利用する宿泊施設、飲食店、体験施設、交通事業者などへの効果は期待できます。



Pick up 6

中学校、テスト採点システム化

◎採点分析システムの導入（108万8千円）

教員の業務効率を高めるシステムの導入により、教員の働き方改革を推進します。現在使用している校務支援システムとデータ連携ができるソフトで、解答用紙をスキャンして一覧で見ることができるようになり、記号や数字などの回答は自動で読み取って採点ができます。

こんな質問が出ました

Q 国語の文章など、微妙な採点にも対応できるのか。

A 部分点の配点にも対応できます。

Q 先生自身が採点したほうが子どもを把握できるのでは。

A 自動採点のあとに教員で必ず確認をします。その内容を分析することができ、その後の指導にも活かすことができます。



Pick up 7

行きたい図書館に

◎図書館運営事業・図書館施設管理事業

（1億1853万円のうち1324万円）

子育て世代が楽しく過ごせる、また誰もが長時間滞在ができるような河北図書館を目指します。

こんな質問が出ました

Q 子育て世代が楽しく過ごせる図書館づくりとは。

A 子ども向けの絵本の蔵書をふやします。

Q 椅子やテーブルを買い足して閲覧席・自習席を増やすということだが、空き部屋を活用しては。

A 警備面の不安や有料で使っている団体に説明が難しいため、エントランスでの自習スペースを作って充実をはかります。



Pick up 8

認知症の世界を理解して

◎認知症VR体験講座委託料 (30万円)

VR(バーチャルリアリティ)の技術を使い、市民向けに認知症の方が見えている世界を疑似体験します。

こんな質問が来ました

Q 疑似体験の人数は。

A 60人を予定しています。

Q 内容と講義時間は。

A 1人1台VRの機械を貸し出します。それを実際見ながら体験し認知症の方へのインタビューや講義もあわせて100分を予定しています。

Q 講座の対象年齢は。

A 令和7年度に関しては、成人であれば対象になり、それ以降に関しては、チームオレンジなどボランティアにつながる方を対象にしたいと思っています。



Pick up 9

財源不足は基金と起債で

◎起債総額 (30億9250万円)

令和7年度の予算は、田中小学校の改築や市営住宅の建て替えが重なったことに加え、物価高による諸費用の増加、人件費の上昇、令和7年度から新たに児童手当の拡充が行われることなどにより、過去最大となりました。財源の不足は、各種基金の取り崩しと起債(※)で補います。

こんな質問が来ました

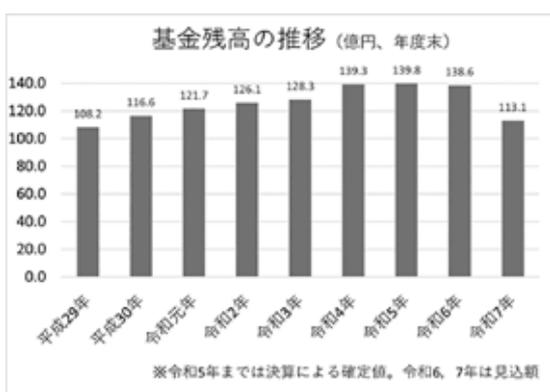
Q 令和7年度の基金取り崩し額が25億8100万円で、このペー

スで取り崩すと53年で0円になる。大丈夫なのか。

A 市の財政計画で各年度ごとに基金の保有額、目標額を明確に規定しており、今後の予算編成でもこれらの目標達成、基金の確保をはかっていきたいです。今後数年で基金がゼロになっ

てしまふということはありません。

※起債とは…お金が足りないときに、借金して補うこと。地元の金融機関や地方公共団体金融機構から借ります。



一般会計予算に対する



賛成の
主な理由

討 論

反対の
主な理由



予算規模の増加は市民サービスの充実や地域経済の活性化をはかるための積極的な施策を反映している。

財政健全化への取り組みも重要で、無駄の削減や効率的な予算執行を徹底し、将来世代に負担を残さない持続可能な財政運営に期待したいと考える。

予算規模の増大に伴い不足額も大きくなり、交付税算入のない100%持ち出しの借金・起債を12億8560万円。さらに基金の取り崩しで25億8100万円計上している。このまま予算執行するのではなく、支出の見直しをする必要がある。

国民健康保険事業勘定特別会計予算に対する



賛成の
主な理由

討 論

反対の
主な理由



国民健康保険の被保険者は減少傾向にあるが、医療技術の進歩などから、1人当たりの医療費は上がっている。

被保険者の年齢構成は、高齢者が多数を占め、所得の低い世帯も多く保険事業の運営も厳しい状況が続くことが予想されるが必要な措置だと考える。

7年度では一人当たり保険料が10万円を初めて超えた。基金を使うことで、県の示す標準保険料率よりも低い税率にしているのはいいことだが、「県から示される標準保険料率に近づけていきたい」という答弁があったように、県下統一保険料に向かっても、加入者からすればさらなる負担増となるゴールに向かっているとしか見えない。

議案に対する議員の賛否一覧（全58議案中賛否が分かれたものを掲載しています）

案 件 名	結果	木村	大田	上野	門	大谷	並松	石井	中村	仲谷	阪中	村垣	堂脇	室谷	榎本	杉原	竹村	船木	川原	
		芳友 (わ)	裕之 (わ)	宗彦 (清)	眞一郎 (共)	さつき (公)	八重 (公)	仁 (共)	まき (共)	妙子 (清)	晃 (紀)	正造 (無)	光弘 (清)	伊則 (公)	喜之 (わ)	勲 (紀)	広明 (清)	孝明 (わ)	一泰 (清)	
議案第25号 紀の川市国民健康保険税条例の一部改正について	原案可決	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第40号 令和7年度紀の川市一般会計予算について	原案可決	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第42号 令和7年度紀の川市国民健康保険事業勘定特別会計予算について	原案可決	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—

【○…賛成 ×…反対 —…議長 欠…欠席 退…退席】

※議長は採決に加わることはできません。ただし、賛否同数の場合は、議案の可決・否決を決めることができる「裁決権」があります。

※(清)…清流会 (わ)…わかばクラブ (公)…公明党 (共)…日本共産党 (紀)…紀の川クラブ (無)…無所属



いっぱん質問



一般質問とは、議員が市民の代表として、市の行政全般に対し、事業の執行状況や政策方針などについて質問することで、政策の見直しや提言なども行います。

木村 芳友 議員（わかばクラブ）
◎過疎地域の活性化を求めて

杉原 勲 議員（紀の川クラブ）
◎上水道の未普及地域の解消を！

大田 裕之 議員（わかばクラブ）
◎健康増進とフレイル予防を目指し、市民が集う平池緑地公園へ
◎安全・安心して暮らす、訪れる紀の川市の更なる発展に向けて

榎本 喜之 議員（わかばクラブ）
◎防犯対策について

大谷 さつき 議員（公明党）
◎就学前の5歳児健診の実施を

門 眞一郎 議員（日本共産党）
◎公共施設の解体と石綿（アスベスト）対策

並松 八重 議員（公明党）
◎文化財の保存活用で市の魅力発信を

石井 仁 議員（日本共産党）
◎「保険証の廃止」でも安心して今まで通り、医療にかかれますか

※ ◎の質問の概要を掲載しています。

一般質問の内容については、要旨のみ掲載していますが、二次元コードから録画配信がご覧いただけます。なお、原稿については、各質問者が投稿したものであり文責は質問者にあります。くわしい内容を知りたい方は、会議録の閲覧ができますので議会事務局議事調査課までお問い合わせください。（TEL 0736-77-2511）

取り戻そう 過疎3地域のにぎわいを



木村 芳友

Q とんまか通りの「エリアリノベーション事業」に取り組みむことになった背景は。

A かつての、とんまか通りの賑わいを取り戻すために、事業を行いたい方と空き家を持続的にマッチングさせる仕組みを取り入れ、官民連携や地域住民の参加を通じて、空き家や空き店舗を再活用し、地域の活性化をはかるためである。

Q 医聖華岡青洲の功績と人工温泉を融合させ、医学的な効能や独自性を強調した温泉体験を提供する事業を立ち上げては。

A ストレス社会における健康志向の高まりも考えられることから人工温泉やサウナといった温泉体験も含め、既存の春林軒、フラワーヒルミュージアムなどの観光資源との運営方法について指定管理者と考えていきたい。

Q 「桃」の地域間連携を構築する観点から粉河地域と那賀地域と融合する取り組みを検討しては。

A 粉河地域と那賀地域で栽培された桃を「紀の里の桃」としてJAでの販売をはじめ、多くの直売所で販売している。今後も、粉河、那賀、桃山地域を含めた市内全域での桃の販売金額が増加するよう、継続して市場セールスや直売イベントの実施、企業と連携した商品開発、メディアへの発信など、市産農産物の販売促進に効果的な事業を実施し、市ブランドの認知度を上げ、消費拡大をはかっていく。



MIKASAKAN

市民が集う 平池緑地公園を目指して！



大田 裕之

Q 市民の健康増進について市の考えは。

A 適度な身体活動・運動は、生活習慣病の発症予防・重症化予防につながるほか、認知症の予防、ストレスの解消や生活リズムを整えることにも効果が期待でき、健康寿命の延伸につながる。

Q 人生100年時代を迎え、健康寿命の延伸が重要視される中で、市民一人ひとりが積極的に健康づくりに取り組むことを後押しする仕組みが必要では。

A 身近な公園で誰もが気軽に利用できる健康運動器具を整備することは、運動習慣を定着させる一助となり、結果的に市全体の健康意識の向上につながると思われる。

A 平池の自然環境の中でウォーキングやランニングを楽しむ方々が多く利用されており、市民の健康維持に役立つ交流の場となっている。利用状況を調査の上、自然環境とのふれあいと健康維持を両立し楽しめる施設として整備の必要

Q 健康運動器具を公園に設置し、市民の健康増進や公園の利用促進につなげた成功事例もある。国や県の補助や助成制度を活用しては。

A 設置に向けた計画を立てるにあたり、先進地の事例を参考にし、国・県の補助や助成について研究する。



平池緑地公園・オニバス広場

就学前5歳児健診で 発達の特性を早期発見



大谷 さつみ

Q 発達障害などを早く発見し、安心の就学につなげることをめざす「5歳児健診」があり、国は昨年からは市町村の健診の助成を開始した。過去3年間の幼児期から学齢期の支援が必要な子どもの人数の推移および市の支援体制は。

A 就学前の教育支援委員会の審議において、支援が必要な5歳児の児童数は、令和4年度は49人、5年度は54人、6年度は56人。支援が必要と認められる場合には、保護者の意向も確認しながら、児童発達支援センターや専門機関などにつなげている。幼児教育から義務教育へ切れ目のない支援ができるよう「つなぎ愛シート」を作成し、早期発見・早期支援に努めている。

Q 落ち着きがない、周囲とうまく関われないなどの発達の特性を持つ子どもたちは、小学校への就学後に、環境に適応できず、不登校になったり、問題行動を起こしてしまうことが少なくない。適切な



支援や療育につなげることができれば、多くの子どもたちが通常学級でも問題なく学べるようになる。5歳児健診を導入した自治体では不登校が減ったという実例もある。就学時健診もあるが、就学までの期間が短く、支援が難しい。早急に5歳児健診の実施をしては。

A 就学前の最終確認、最後の保護者へのアプローチのタイミングとして5歳児健診の実施は有効であると考えている。他市の状況や国の動向を見ながら検討していく。

次世代へ、未来志向の 新しい文化財展示施設を



並松 八重

Q 文化財は地域の成り立ちや、歴史・文化を理解するうえで、重要な役割を担っている。本市は平成28年に「文化財展示施設活用計画」を策定し見直すことあった。どのような見直しをしたのか。

A 計画は実施に至らなかったため、見直しはしていないが、平成30年、国において文化財保護法が改正され、市町村における文化財の保護と、活用に関する総合的な法定計画である「文化財保存活用地域計画」の策定が制度化された。市は協議会をたちあげ、令和8年度をめどに作成を進めている。

Q 平成28年に発行された文化財マップに掲載されている文化財の保存状況と今後の課題は。

A 文化財には市所有のものもあるが、多くは個人や団体が所有・管理している。

文化財には未指定のものも数多くあり、行政だけでは状況を確認することは困難である。地域ぐるみで守り、今後も保存継承してい

くため、引き続き指導や支援を続けていく必要がある。

Q 歴史や文化財のなかには、多くの偉人の功績があり、作品も寄贈されている。偉人を顕彰し、郷土愛の醸成につながる総合的な展示施設の建設が必要と考えるが。

A 企画展や広報紙を通じて数多くの偉人を顕彰し広く知っていたべく機会を増やす。展示内容の検討や施設の充実をはかることは必要だが、建設には多額の費用と時間を要することから、関係部局と協議を重ね、調査研究していきたい。



紀伊国分寺本堂

上水道の未普及地域解消を！



杉原 勲

Q 水道事業は、自治体として公衆衛生の向上と生活環境の改善に寄与することを目的とするもので、水道未普及地域の要望に応えることは非常に重要である。

A 水道未普及地域は地域の水道施設を集落単位で運営し、施設の老朽化などで、維持管理が非常に困難になっている。大雨時の濁り水や水源枯渇、水質汚染といった環境の悪化も生じ、早急の上水道の整備が必要であると思うが市の考えは。

A 水道事業として市民が良質の水道水を安定して利用できるよう、水質管理など取り組んでいる。上水道区域以外の地域では、地域に応じた地元管理の飲料水供給施設などで対応していると認識しており、以前より水道未普及地域の専門地域においては、水道施設整備の要望をいただき必要な検討を行っている。当該専門地域住民の切実な要望であると同時に重要なライフラインであり、事業に必要な財源確保のため、国や県に補助制

度の拡充に向けた要望を行っている。

Q 水道未普及地域への国の補助金制度が見直されたと聞く。市長の政治力を駆使し地元の要望を早く実現することが公平で、安全・安心な紀の川市の構築につながると思うが市長の考えは。

A 水道未普及地域の住民から熱意ある要望をいただき水道未普及地域解消に向けた財源確保のため、国・県などへの要望活動を引き続き実施していく。



今一度、防犯対策を



榎本 喜之

Q 近年、無差別に人を襲うような事件が起こっている。市の防犯対策を確認する。防犯カメラの設置状況は。

A 本庁舎及び南別館には駐車場を含め合計50台あり、支所及び出張所には5施設合わせて22台。

小学校には合計55台、中学校には合計31台、公立保育所には合計8台設置している。

Q 防犯訓練の実施は。また、「さすまた」の設置状況は。

A 本庁舎、支所及び出張所では実施できていない。「さすまた」は本庁舎1階から5階、南別館1階と3階の各フロアに1本ずつ設置している。

小学校での不審者対応の訓練は全校で毎年1回、中学校は数校が実施している。「さすまた」は各校平均5本設置している。

保育所は厚生労働省が定めている「保育所保育指針」にのっとり防犯訓練を定期的に実施し、「さすまた」は保育所合計で16本設置

している。

Q 軽量の防犯グッズなど進化した物も出てきている。再度防犯対策について考えては。

A 職員の安全も確保しながら、侵入した不審者から市民を守る事が出来るような物を選定することは有効である。他の自治体の導入事例や、警察をはじめとする専門家の意見も取り入れながら導入するかどうかが総合的に判断していく。



さすまた

公共施設解体工事で、石綿（アスベスト）を飛散させぬために



門 眞一郎

Q 石綿は耐火、耐熱、防音などの性能に優れた天然の鉱物で、安価で加工しやすいので建築材料として使われてきた。飛散した繊維を吸引することで肺がんや中皮腫などの健康被害を引き起こすため現在、製造や使用が禁止されている。

A 公共施設の解体工事の際、市は石綿の対策をどう認識しているか。

石綿は飛び散ること、吸い込むことが問題となるため、労働安全衛生法や大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律などで予防や飛散防止がはかられていて、適正に処置、処理している。

Q 過去の解体工事で、石綿があった場合、適正に処分できたのか。

A 吹き付け石綿など（レベル）があった工事では作業計画を作成、作業場所の隔離など、法令に基づく方法で除去・処分を行ってきた。

レベルに該当する石綿の除去を実施したものは、桃山小中学校の給食室の天井裏、旧粉河支所内



石綿（アスベスト）吹き付けの例

の武道館の倉庫部分、旧那賀支所の金庫室、旧本庁舎天井裏の一部などがある。

Q 今後の解体工事の際、周辺住民に対する安全対策をどう徹底するのか。

A 石綿含有の調査結果、作業の方法、作業期間などを周辺住民の見やすい場所へ掲示して近隣の周知をはかる。安全対策については、今後も各種法令に基づいた適切な施工を進めていく。

保険証の有効期限が来る前に「資格確認書」が届く



石井 仁

Q デジタル化を進める各施策や事業に対する認識は。

A デジタル化することを「目的」ではなく「手段」として、利用者目線で業務の効率化・改善などを行うとともに、それぞれの事業ごとに費用対効果を検証しながら、過剰な投資とならないように努めている。誰一人取り残さない分かりやすいシステムを導入するよう心掛けていく。

Q 令和7年度は、現行の保険証の有効期限が切れる年となる。市民への十分な説明が、一番必要としている人にきちんと届くことが求められる。

マイナンバーカードを持っていない人や保険証機能をひもつけていないマイナンバーカードを持っている方も、これまで通り受診できるか。

A 国民健康保険、後期高齢者医療保険では7月に「資格確認書」を郵送する予定。それを持っていただければ今まで通り受診できる。

Q 生活保護受給者の病院での資格確認は。医療券を市役所でもらう必要は無くなったのでは。

A 医療機関のシステム導入が遅れているためマイナンバーカードを使ったオンラインの資格確認ができない所もある。医療機関から医療券の提出を求められており、現行通り、その都度、医療券を発行し、受診いただく。医療機関側がオンラインに対応できるようになり、さらに県からの通達があれば対応できる。

後期高齢者医療資格確認書	
有効期限 交付年月日	
保険者番号	
姓 名	
生 年 月 日	
資格取得年月日	
医療費合・免除額	
認定区分・免除額	
診断人氏名	
認定区分・免除額	
医療費負担率	
医療費負担率 に負担者の負担 及び	



委員会活動報告



各委員会では、議案の審査だけでなく、委員会に付託された市民生活に深く関わることについて議会の閉会中も調査研究を行っています。
最近の活動状況についてお知らせします。

厚生常任委員会

●1月27日 所管事務調査を行いました

1. 保育所の現状と課題

入所申し込み状況、公立保育所再編計画の説明を受けました。

Q

打田地区で、こぼと保育所に入所できないようになってきている。再編計画を具体的にどうしていくのか。

A

移転や現地拡張、大規模改修などを早期に進めるのも必要です。施設に余裕がある場合は保育士の配置などでの対応も考えられる。人材確保が厳しいのは承知しているが、保育所・保育士の拡充をもって低年齢児の受け入れを進め、あわせて再編計画を進めていきたい。

Q

視察に行った流山市では、給与面などで東京の方に流出している保育士を確保するために、手当や住居の確保など独自の対策を行っていた。本市でもできないか。

A

国からの処遇改善加算は各保育所にお支払いしている。独自の補助などについて必要であると考えているが、具体的などころまでは至っていない。早期に研究・検討を進めていきたい。

Q

中貴志保育所と丸栖保育所の建て替え用地は決まったのか。

A

候補地としては中間地点であればと思うが、ある程度の広さが必要であり、調査をしているが、候補地というところまで進んでいない。現状の施設の拡充も含めた進め方も考えなければならない。

※後日、3月11日の委員会に第2次再編計画書の更新版が提示されました。

2. 学童保育の現状と課題

入所児童数や民間委託を進めている途中経過などが説明されました。

Q

保育所で入所が困難という事で、これは小学校でもこの先変わらないと思う。定員オーバーでも受け入れが必要になるのでは。

A

旧施設があるところなどキャパを確保できる場合は、民間事業者に10施設すべて委託しており、減ってきているところもあるので支援員さんの配置で対応していけると考えている。人数の動向などに注視し、拡張なども検討する。

Q

民間委託になると待機児童ゼロになるよう支援員を確保してくれるのか。

A

現在の数字は申し込み時点で、これを基に配置を見直して受け入れを増やしていきたい。ただ支援員さんの意見も聞く必要があるので、いろいろ協議を進めながら、なるべく入所できるようにしていきたい。

うなったの？

今後のクビアカツヤカミキリの対策は？

特定外来種クビアカツヤカミキリは、2017年に県内ではかつらぎ町で初めて成虫が発見され、2019年には桃の木に被害が確認された。その後、紀北広域の桃・スモモ・梅などに急激に被害が拡大している。本市の特産品を守るため、被害防止対策の取り組みは。

答 弁

クビアカツヤカミキリの被害が増えている状況に危機感を感じている。効果的な予防対策が見つければ、取り組みたい。

その後

補助金が出るよ！

被害軽減をはかるため、関係機関と連携し、被害木の伐採、伐根費用や農薬購入費用に対して一部補助金を出して被害対策を進めていきます。

令和7年度から新たに薬剤散布による一斉防除に対して補助金が出ます。



フラスを確認

ご意見・ご感想をお聞かせください



紀の川市議会では、議会広報紙「未来へ」を年4回発行しています。議会を身近に感じられる広報紙となるよう、皆様の声をお聞かせください。今後の編集に活かしていきます。

回答方法

専用フォームから回答するか、感想などを記入し郵送、メールでご提出ください。



URL : <https://logoform.jp/f/XMJ9t>

専用フォーム

〒649-6492 紀の川市西大井 338 番地
紀の川市議会広報特別委員会あて
e-mail : k010200-001@city.kinokawa.lg.jp

議会のインターネット配信

本会議の録画映像をインターネットで配信しています。議会ホームページや、二次元コードからぜひご覧ください。



本会議の録画映像はこちらから



次回6月定例会

日	月	火	水	木	金	土
5/25	26	27	28	29	30	31
					本会議 (開会)	
6/1	2	3	4	5	6	7
				本会議 (一般質問)	本会議 (一般質問)	
8	9	10	11	12	13	14
	本会議 (一般質問・ 質疑・付託)		総務文教 分科会・ 総務文教 常任委員会	厚生分科会・ 厚生 常任委員会	産業建設 分科会・ 産業建設 常任委員会	
15	16	17	18	19	20	21
				予算決算 常任委員会		
22	23	24	25	26	27	28
	本会議 (閉会)					

※午前9時30分開会予定です。なお、日程は変更することがあります。



ちょっとおしえて!

あの質問、ど

「子どもたちの命が一番」

子どもなど弱者が在所する施設において、不審者侵入など緊急事件発生時には、一刻も早い警察への通報が必要である。ボタンを押せば、警察に通報できる110番非常通報装置の設置を、保育所や小学校などへ早々に進めていくべきでは。



保育施設、小学校においては、不審者の侵入を想定した避難訓練・防犯訓練を定期的に行っている。警察に直接通報できる110番非常通報装置の設置については、有効であることから検討していく。



予算化されました！

保育所への不審者侵入などの非常時に備え、ボタンを押すだけで迅速に警備会社または警察へ通報できる通報装置を整備します。

公立保育所：貴志川地区4保育所に整備
(打田地区3保育所整備済み)

私立保育所：各法人が整備する際の補助制度を創設



保育所にある非常通報装置

給水スポットの設置を

プラスチック製品であるペットボトルは分別回収されているが排出量は増加している。ペットボトルの使用量を減らし、熱中症対策としても有効であるマイボトル専用の給水スポットを公共施設に設置しては。



プラスチックごみの減量につながるマイボトルの利用の普及活動は有効な手段の一つであるが、調査・研究を行い検討していく。



図書館にウォーターサーバー設置

快適な図書館づくりにつなげるとともに、ごみ削減にも効果を期待し、マイボトルを持参した人が利用できるウォーターサーバーを新たに設置します。





かがやきホール30周年記念公演
ANAチーム羽田オーケストラ コンサート



ウォールアート (西山口駅)



ゲストランナー 川内優輝



ピンクリボンサイクリング



大國主神社 春季例祭

編集後記

いつも議会だより「未来へ」を愛読していただき、ありがとうございます。今年が紀の川市合併20年の記念の年で、この節目を祝い本市の持続的な発展を願い、20周年事業のひとつである大相撲紀の川場所も盛大に行われました。

ただ全国的な人口減少で合併時7万人の人口は現在では約5万8千人に減少しています。また高齢化率も33%と年々高くなっています。こうした状況を何とか打破して市の計画人口6万人を目標にあらゆる角度から政策に取り組んでいます。まず若者の定住が大きな課題です。これからの長期計画で移住や集客への政策など、未来に向かって大きな夢と希望のみなざる紀の川市へと進めていく必要があります。

今後関西国際空港まで約20分で行ける京奈和関空連絡道路の早期実現や、国外を含め多くの人が紀の川市へ訪れ、賑わう政策実現に向け、頑張つて取り組んで行きましょう。

(船木 孝明)

